はじめに



石川県は、高山帯を頂く白山から変化に富んだ長い海岸線を有する能登半島まで、多様な自然環境に恵まれた、生物多様性の豊かな地域です。こうした自然は、生きものの生息・生育の場であると同時に、食料や木材、水など、私たちの暮らしを支える多くの恵みをもたらしてきました。さらに、地域に根差した食や伝統行事、伝統工芸など、本県が誇る多様な文化は、いずれも豊かな自然を基盤として育まれてきたものです。

本県では、こうした自然を将来の世代に引き継ぐため、2011年３月に石川県生物多様性戦略ビジョンを策定し、「いのちあふれ トキが舞う 里山里海を未来の世代へ」を目標に掲げ、里山里海の利用保全を中心とした取組を進めてきました。

これらの取組の成果として、2011年６月に、「能登の里山里海」は、生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用、多様な生物資源などが総合的に評価され、世界農業遺産に認定されました。さらに、2026年５月には、これまでのトキの保護増殖や放鳥に向けた取組が実を結び、能登地域において本州初となるトキの放鳥が実現しました。一方、2024年１月に発生した令和６年能登半島地震、同年９月に発生した令和６年奥能登豪雨により、自然環境や人々の暮らしは大きな影響を受け、生物多様性の回復が重要な課題となっています。

また、国際的には、2022年12月に採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させることを目指す「ネイチャーポジティブ」が目標として掲げられ、社会全体での行動が求められています。

本県では、このような環境の変化を踏まえ、この度、石川県生物多様性戦略ビジョンの見直しを行いました。
本戦略ビジョンでは、「自然と人とが共生し、豊かな自然環境と地域文化が調和するいしかわの実現」を中長期目標とし、引き続き、本県にゆかりの深い「トキ」を、生物多様性のシンボルとして位置づけ、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取組を一層推進します。

県民の皆様をはじめ、多様な主体と連携しながら、積極的に取組を推進していきますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本戦略ビジョンの見直しにあたり、貴重なご意見、ご提言をいただいた石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会の委員の皆様をはじめ、関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

2026年７月

石川県知事　**山野　之義**